



一

昨日まで降り続いた雨が止み、今日は朝から快晴だった。梅雨が明けるにはまだ早い、照りつける日射しは夏の訪れを思わせる。

見渡す限りの新緑の中、甘い香りが漂っている。

「まさに桃源郷……だな」

赤い実をせっせと摘みながら、その男はつぶやいた。露に濡れた葉の陰で、真っ赤に熟していたのは山桃。

城下町近くの山に自生する桃の実は、梅雨の最中に旬を迎える。放っておくと地に落ちたまま泥に埋もれてしまう